

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	99	実施計画番号	49
事務事業名	勤労観・職業観を育てる進路指導の推進		事業開始年度 平成23年度
担当課名	指導課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	関連事務事業		
背景や経緯等	一人一人の児童生徒の将来の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることは、社会全体の重要な課題となっている。本市においても、キャリア教育の推進を学校教育指導の重点課題に掲げ取り組んでいる。		
事務事業の目的	児童生徒の適正な勤労観や職業観を育成するための環境づくりを行う。		
実施状況	キャリア教育の推進のための情報交換やキャリア発達を意識した指導の推進のために、キャリア教育研修会を開催した。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	7	7	7
	活動日数(日)	0.5	0.5	0.5
	人件費(千円)	126	126	126
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	23年度実績	24年度実績	25年度計画
	8	8	8
うち一般財源	8	8	8
うち国県支出金	0	0	0
うち地方債	0	0	0
うちその他	0	0	0

【指標】

活動指標	活動指標名①	キャリア教育研修会の参加者数			
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
		人	41	30	30
	活動指標名②				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
成果指標	成果指標名①	キャリア教育の全体計画・年間指導計画を作成している学校数			
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		校	目標値 29	29	26
			実績値 27	29	
			達成度(%) 93%	100%	
	成果指標名②				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		目標値			
		実績値			
		達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

整理No	99
計画No	49

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">キャリア教育の推進は、社会全体の重要な課題であり、今後も教員対象の研修会を充実させていく必要がある。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	キャリア教育の推進は、社会全体の重要な課題であり、今後も教員対象の研修会を充実させていく必要がある。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
キャリア教育の推進は、社会全体の重要な課題であり、今後も教員対象の研修会を充実させていく必要がある。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">各校からの参加者も多く、キャリア教育の諸計画も整備されてきた。今後は、理論的な研修会から、より実践的な研修会に移行させることにより、学校現場のニーズに応えていきたい。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	各校からの参加者も多く、キャリア教育の諸計画も整備されてきた。今後は、理論的な研修会から、より実践的な研修会に移行させることにより、学校現場のニーズに応えていきたい。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	各校からの参加者も多く、キャリア教育の諸計画も整備されてきた。今後は、理論的な研修会から、より実践的な研修会に移行させることにより、学校現場のニーズに応えていきたい。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">実質的には講師謝礼のみで事業を実施しており、これ以上のコスト削減の余地はないと考える。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	実質的には講師謝礼のみで事業を実施しており、これ以上のコスト削減の余地はないと考える。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	実質的には講師謝礼のみで事業を実施しており、これ以上のコスト削減の余地はないと考える。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">悉皆参加で行うとともに、参加希望するすべての教職員を受け入れており、受益の偏りはないと考える。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	悉皆参加で行うとともに、参加希望するすべての教職員を受け入れており、受益の偏りはないと考える。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
悉皆参加で行うとともに、参加希望するすべての教職員を受け入れており、受益の偏りはないと考える。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
キャリア教育の推進は、本市の学校教育指導の重点課題の一つでもあり、研修会の内容の充実を図りながら、現状のまま継続したい。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
平成25年度は研修会開始から3年目を迎える。学校現場ですぐに役立つ実践事例の紹介を中心にして、内容の充実を図りたい。